

東北地方 1 か月予報

(1 2 月 2 0 日から 1 月 1 9 日までの天候見通し)

平成 1 5 年 1 2 月 1 9 日
仙台管区气象台発表

< 予想される向こう 1 か月の天候 >

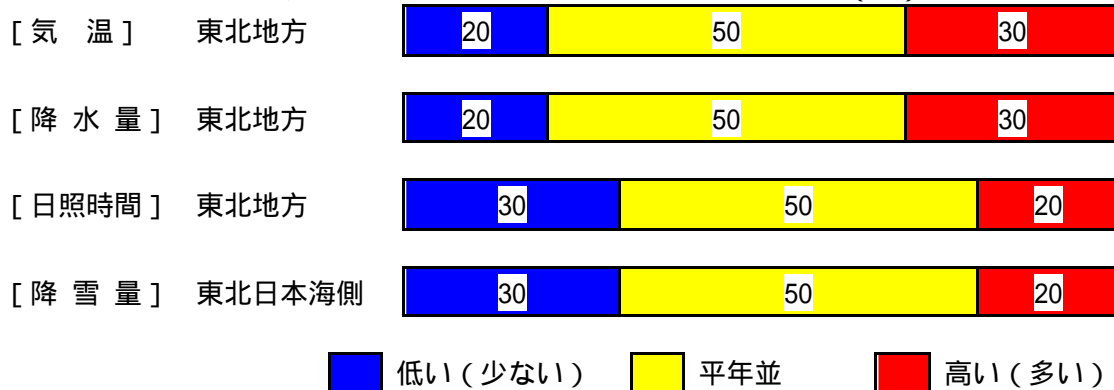
向こう 1 か月の実現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

冬型の気圧配置となる日が多く、2 週目を中心に冬型の気圧配置が一時強まるでしょう。
平年と同様に東北日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多いでしょう。

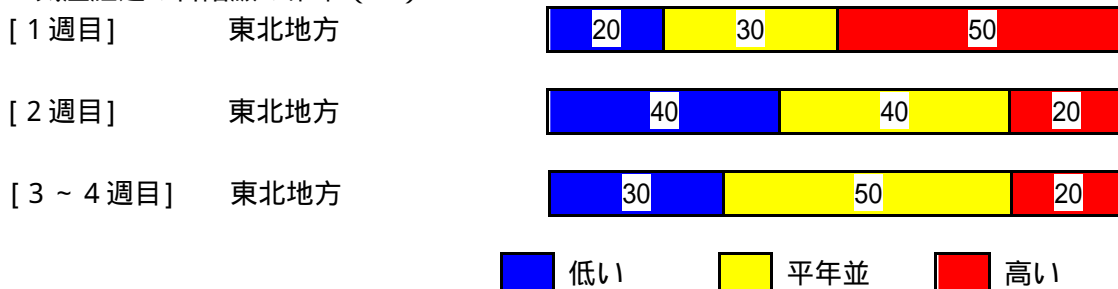
向こう 1 か月の平均気温、降水量、日照時間、東北日本海側の降雪量は共に平年並でしょう。

週別の気温は、1 週目は高い、2 週目は平年並か低い、3 ~ 4 週目は平年並の見込みです。

< 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率 (%) >



< 気温経過の各階級の確率 (%) >



< 予報の対象期間 >

1 か月 : 1 2 月 2 0 日 (土) ~ 1 月 1 9 日 (月)
1 週目 : 1 2 月 2 0 日 (土) ~ 1 2 月 2 6 日 (金)
2 週目 : 1 2 月 2 7 日 (土) ~ 1 月 2 日 (金)
3 ~ 4 週目 : 1 月 3 日 (土) ~ 1 月 1 6 日 (金)

< 次回発表予定等 >

1 か月予報 : 毎週金曜日 1 4 時 3 0 分 次回は 1 2 月 2 6 日
3 か月予報 : 1 2 月 2 5 日 (木) 1 4 時 0 0 分

< 参考資料（平年並の範囲等） >

（１）30 年平均値（向こう 1 か月の平均気温、降水量、日照時間、降雪量と 1 週目、2 週目、3 ～ 4 週目の平均気温）

	気 温 ()	降 水 量 (mm)	日照時間 (時間)	降 雪 量 (cm)	気 温()		
					1 週目	2 週目	3 ～ 4 週目
大船渡	1.6	41.7	144.7	2	2.5	2.1	1.2
新庄	-0.5	193.2	40.0		0.4	-0.1	-1.0
若松	0.1	84.3	74.4	121	1.1	0.5	-0.3
深浦	0.7	105.6	32.1	62	1.6	1.2	0.2
青森	-0.5	143.2	54.0	232	0.4	-0.1	-1.0
むつ	-0.6	91.5	73.4		0.3	-0.1	-1.1
八戸	-0.2	44.7	129.8	31	0.7	0.2	-0.7
秋田	0.9	131.2	45.0	79	1.8	1.3	0.4
盛岡	-1.1	53.9	115.7	61	-0.1	-0.7	-1.7
宮古	1.2	45.5	155.8	10	2.1	1.7	0.7
酒田	2.4	168.3	40.5	59	3.4	3.0	1.9
山形	0.4	79.6	86.8	99	1.5	0.9	-0.1
仙台	2.4	33.8	147.7	22	3.4	2.8	1.9
石巻	1.5	34.0	161.1		2.4	1.9	1.0
福島	2.3	43.0	131.8	34	3.3	2.7	1.8
白河	1.0	30.5	156.7		1.9	1.4	0.5
小名浜	4.4	43.5	185.7	0	5.3	4.8	3.9

なお、気温、降水量、日照時間、降雪量の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

（２）1971～2000 年のデータに基づいた向こう 1 か月地域平均の気温、降水量、日照時間、降雪量の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)	降雪量平年比(%)
東北地方	-0.2～+0.7	74～ 97	98～ 105	69～ 103
東北日本海側	-0.2～+0.6	91～ 106	95～ 109	76～ 116
東北太平洋側	-0.2～+0.7	58～ 98	97～ 105	57～ 93

（３）この予報期間の 1 週目、2 週目、3 ～ 4 週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1 週目	2 週目	3 ～ 4 週目
東北地方	-0.6～+0.7	-0.4～+0.8	-0.5～+0.7
東北日本海側	-0.6～+0.7	-0.4～+0.8	-0.5～+0.6
東北太平洋側	-0.6～+0.8	-0.5～+0.9	-0.5～+0.8

< 参考資料（利用上の注意） >

（１）気温・降水量等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の 3 つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000 年の 30 年間における各階級の出現率が等分（それぞれ 33％）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。

（２）確率は、それぞれの階級が実際に起こると予想される割合を表しています。信頼性の大きい予測資料が得られた場合には気候的出現率（階級の定義から各階級とも同じで 33％）から大きく隔たった確率（10％や 60％、70％など）を付けられますが、信頼性が小さい場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（30％、40％）の確率しか付けられません。

（３）晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の 2 分の 1 より多い（少ない）ことを意味します。

東北地方 1 か月予報解説資料

平成 15 年 12 月 19 日 仙台管区气象台

1. 実現の可能性が最も大きい天候

向こう 1 か月(12 月 20 日～1 月 19 日)：

冬型の気圧配置となる日が多く、2 週目を中心に冬型の気圧配置が一時強まるでしょう。平年と同様に東北日本海側は曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多いでしょう。平均気温は平年並でしょう。

1 週目(12 月 20 日～12 月 26 日)：

明日(20 日)から明後日(21 日)は強い冬型の気圧配置になるため、荒れた天気になる見込みです。その後は冬型の気圧配置が緩み、おおむね晴れますが、期間の終わりは、気圧の谷の影響で天気のくずれる所があるでしょう。

平均気温は高いでしょう。

2 週目(12 月 27 日～1 月 2 日)：

冬型の気圧配置となる日が多く、一時強まるでしょう。東北日本海側は曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側も平年に比べて晴れの日が少ないでしょう。

平均気温は平年並か低いでしょう。

3～4 週目(1 月 3 日～1 月 16 日)：

気圧の谷は数日の周期で通過し、通過後は冬型の気圧配置となるでしょう。平年と同様に東北日本海側は曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多いでしょう。

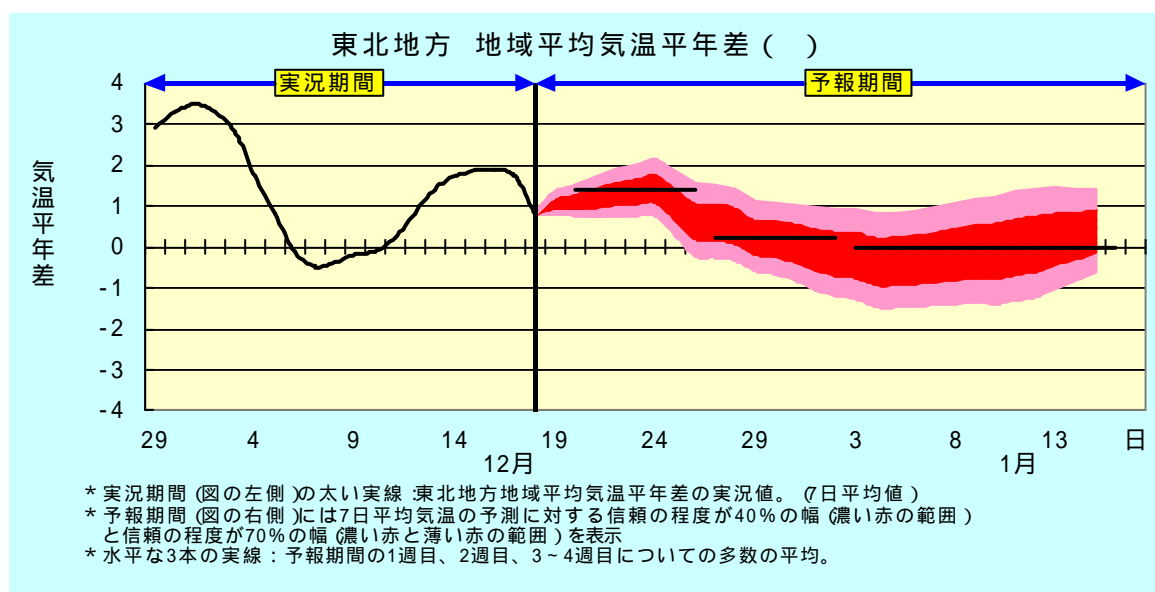
平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数

	向こう 28 日間	1 週目	2 週目	3～4 週目
東北日本海側	4.7 日	1.2 日	1.2 日	2.3 日
東北太平洋側	17.3 日	4.3 日	4.4 日	8.6 日

2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1 週目は「高い」、2 週目、3～4 週目を「平年並」と予測している。予報は、その他の資料から、2 週目を「平年並か低い」に変更する。なお、数値予報の信頼度は大きい。

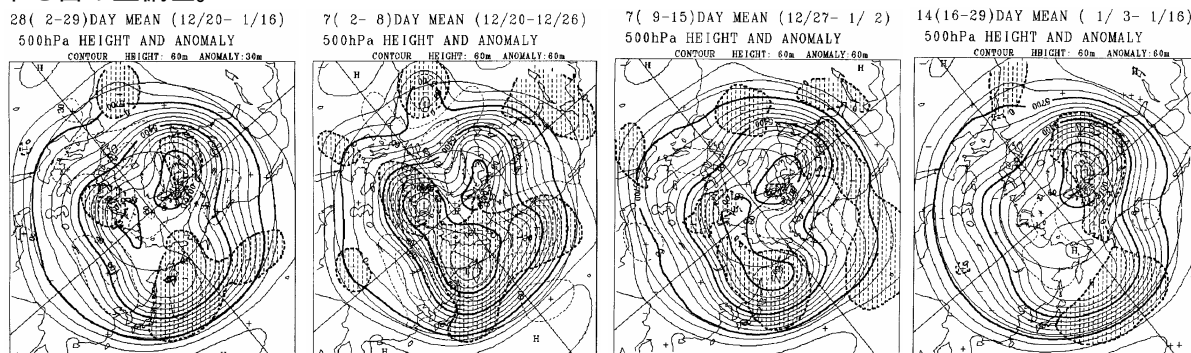


3．数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、日本の東が気圧の谷で、カムチャツカ半島付近から北日本にかけて負偏差が広がり、寒気の影響を受ける時期がある見込み。

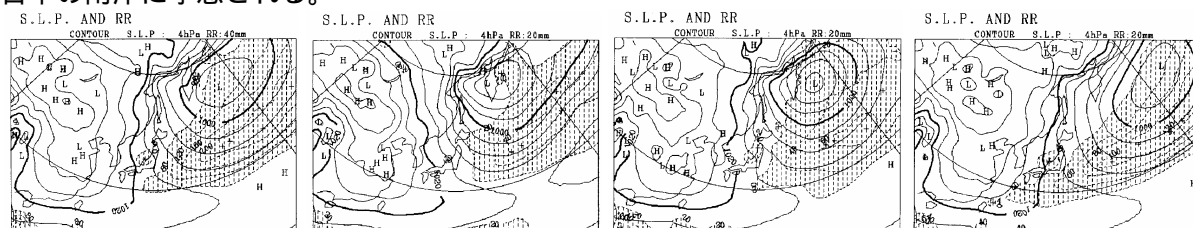
週別に見ると、1 週目、2 週目とも北日本は負偏差に覆われる。2 週目はアラスカ付近で気圧の尾根が強まり、寒気の影響を受けやすい。3～4 週目は負偏差は日本の東海上で、日本付近は北日本も含め正偏差。



地上気圧と降水量：

月平均では、ほぼ平年と同様の冬型の気圧配置。降水域は日本海側と日本の東海上に予想される。

週別に見ると、1 週目は初め強い冬型の気圧配置となるが、その後冬型の気圧配置は緩む。降水域は北陸地方にかかる程度。2 週目は冬型の気圧配置が一時的に強まる。降水域は日本海側を中心に東北地方に広がる。3～4 週目も冬型の気圧配置となるが、やや弱い。降水域は日本海側と日本の南岸に予想される。

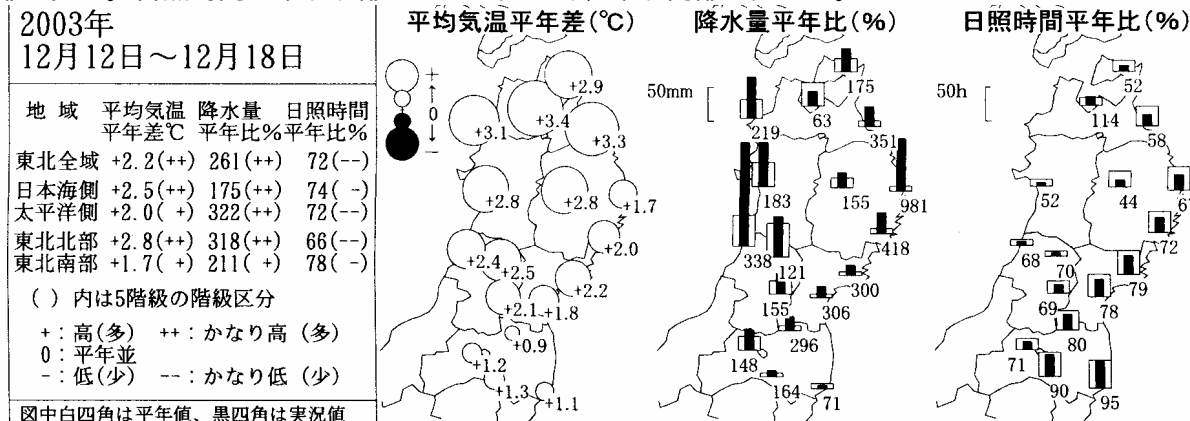


4．最近 1 週間（12 月 12 日～12 月 18 日）の天候の経過

この期間、低気圧が短い周期で東北地方を次々と通過し、通過後は一時的に冬型の気圧配置となったため、東北日本海側を中心に曇りや雨の日が多かった。

なお、17日に小名浜で初氷を観測した。

平均気温は東三陸でかなり高く、東北南部で高い。降水量は東三陸でかなり多く、東北南部で多い。日照時間は東三陸でかなり少なく、東北南部で少ない。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）